



■被災地出張授業 2016年1月22日

次の時代を担う 皆さんに期待すること



講師：馬田 一 副代表幹事 (JFEホールディングス 相談役)

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を、地域の発展に貢献できる人材育成を行っている、岩手県立大船渡東高等学校で行った。今回は、馬田一副代表幹事が講師を務め、2年生、3年生を対象に、社会人になることの意義について、そして次の時代を担う高校生に期待することについて語った。

30年後の社会は大きく変わる 人口減少と技術の進歩

30年後の日本がどうなっているか、想像してみてください。皆さんは40代後半になっています。多くの人は家庭を持っているでしょう。30年後の人口は、現在の1億2,708万人から1億人になります。特に働き手となる15歳以上65歳未満の生産年齢人口は、7,700万人から5,400万人と約3割も減少します。少子・高齢化による深刻な人手不足という問題に直面するのです。

この問題を解決するには、まず働き手を増やさなければなりません。そこで、女性の活躍に期待が高まっています。今、男性は9割が働き、女性は7割が働いていますが、この女性の比率を8割以

上に増やすことで、問題を解決しようということです。女性の働き手を増やすには、子育てをしながら働ける環境をつくらなければなりません。そのためには、男性も家事や育児にもっと参加する必要があります。

30年後にはさまざまな技術が進歩しているでしょう。今、注目されている技術には、人工知能、ロボット、自動車の自動運転、再生医療などがあります。人口減少が進む日本では、これらの技術も課題解決につながると期待されています。

しかし、「技術の進歩は諸刃の剣」でもあります。シンギュラリティ（技術的特異点）という言葉があります。人工知能が人間の能力を超えるような特異点に達すると、その後人類は人工知能に支配され、SFのようなことが起こるといわれるのです。おそらく30年後には、かなり切迫した問題になっていると思います。技術の進歩とともに、その技術を制御し、悪用されないように考えていく必要があります。それを考え出すのは、皆さんの世代になるでしょう。

社会人になるということ 大人になるということ

社会人になるということは、社会での活動を通じて社会に貢献することです。一般的には仕事に就くことを指します。では仕事とは何か。仕事とは人のために

ものをつくったり、ものを運んだり、またはサービスをしたりすることです。それによって、人々の生活が成り立っているのです。つまり、仕事に就くこと自体が、人のためになり、社会に貢献していることなのです。

では、大人になるということはどういうことでしょうか。自分の生きる道を自分で決め、結果に対して責任を持つこと、自立し自己責任を持つということです。もう一つ自主という言葉があります。人に言われなくても、自分が主体的に行動するということです。

人生は多くの人の支えで成り立っています。今後社会に出ると、高校時代よりも人間関係や社会とのつながりが、はるかに広がり、多様化していきます。そのつながりなくしては生きていけません。つながりをより良くしていくことも、大人になるということなのです。

社会人になるより、大人になる方が難しいかもしれません。最近では社会人になっても大人になれない人が多くいます。大人になる力は、人間が成長していく中で、いろいろな経験を積んだり、努力することで培われていくものです。

自分に合った職業かどうかは 3年頑張ってみ極める

今、新入社員の早期退職率が高まっていることが問題になっています。就職し





て、3年以内で辞めてしまう人が、40%もいるそうです。1年で辞める人も全体の20%います。一番の理由は、「仕事が自分に合わない、つまらない」というものでした。しかし、1年や2年では仕事の面白みややりがいを見つけるのは難しいでしょう。なぜなら、新人のうちから責任のある大きな仕事を任されることはなからです。基礎を身に付け、能力が認められ、ようやくやりがいのある仕事を任されるようになるのです。また、やりがいがあるかどうかは、本人の考え次第です。どんな仕事でもやりがいを持ち、面白いと思えば、前向きになり、結果も出てきます。

仕事が自分に合っているかどうかというより、むしろ、やっていくうちに自分が仕事に合っていくのだと思います。定年退職した人に聞くと「つらかったが達成感があった。充実した社会生活を送れた」という人がほとんどです。つまり、困難を乗り越えることで、結果的にその人が仕事に合っていたということです。

皆さんには、今後社会に出て出会う仕

事やその職場の上司に対して、好きになる努力をしてほしい。どこかに必ず好きになる所があるはず。そして仕事は少なくとも3年間は、辛抱して頑張ってください。それでもだめな場合は、次に進めばいい。その3年間は必ず、次に活かせるはず。

最後に、これまで自分に言い聞かせてきたことを10項目にまとめました。参考にしていただき、自分の経験から反省したことをください。

●私の経験(反省)から皆さんに期待すること

- ・希望(目標)を持ち、実現に向けて一歩ずつ努力を積み重ねること。
- ・平凡なことをいつも着実にやることは難しい。しかし、平凡の積み重ねが大切。
- ・失敗を恐れずに挑戦すること。しかし同じ失敗を繰り返さないよう努めること。
- ・自ら見て、自ら考え、自ら実行すること。
- ・多くの人と交流し、多くの意見を聞き、相手の意見を尊重すること。
- ・常に謙虚な姿勢で相手の立場になって考えること。
- ・人生に運、不運はあるが、努力をすれば運が近づいてくる。
- ・逆境にあっても悲観せず、順境にあっても慢心しないこと。
- ・社会に関心を持ち、自ら参加し、社会を変える努力をすること。
- ・身体、精神の健康が何より大切。

生徒の感想

●現在の社会は、さまざまな問題があると思います。日本は特に、若い人が少なく労働者が足りない、女性が働くことが難しいといったことがあります。

しかし、これからの30年、社会は変わっていくことでしょう。その中で、私も次世代を担う者として、世の中にかかわっていきたく感じました。社会人とは、自分で道を定めることだと聞きました。社会を変えるには、常に自分の心の声に従い、自分自身で判断することが良いと思いました。一人前の大人になることを目標にします。

●社会人になることと大人になることは違うのだと分かりました。私はまだ大人になれていません。これからは、社会貢献できる社会人になり、自分のすることを決められ、責任を持てる大人になりたいと思いました。

●今まで考えていた仕事のイメージが変わりました。自分は、取りあえず仕事に就ければよいと思っていましたが、間違いがたくさんあったことに気付きました。これから、自分が就職するとき、自分の良い所をアピールして、すぐに諦めないようにしたいです。

●将来に向けての考え方や見方がとても変わりました。これからの時代を担う者として、しっかりと責任を持ち、時代を引っ張る人間を目指して頑張ろうと思いました。

●これから社会人になるに当たって、社会や人のために何ができるか、未来を見据えてどのように行動するべきか、考える良い時間になりました。これまで、社会を支えてこられた多くの方が退職し、私たち若い世代が日本を支えていかなければならなくなっていて、一人ひとりが未来のために責任を持っていかなければならないと感じました。さまざまな方々から、私たち若い世代には期待していただいています。その期待に少しでも応えていける人間になりたいです。

●私は消防官を目指しています。日本の現状をよく理解し、問題意識を持ち、改善しながら次の世代を見据え、仕事、生活をしていくことは、消防官としても大切なことだと思いました。これからについて、あらためて考える良いきっかけになりました。

●仕事は嫌がっていても何の価値もないと思います。仕事を楽しむためには、与えられた仕事の中に面白さを発見し、やりがいや生きがいを自らが創り出していくことが必要だと思います。

●講演の最後に、次の世代に送った10の言葉に非常に感銘を受けました。知らなかった考え方や生き方があると知り、これから、20年、30年の間に多くのことを学んで馬田先生のような方になれるよう頑張りたいです。